



町のわたい

今月の題字 鈴木 拓君 (山田小6年)



「小さな孤児ANNIE」公演 元気いっぱいの演技に拍手

1月30日、沿岸部の芸術文化活動を支援している特定非営利活動法人劇団ゆうが主催するキッズミュージカル「小さな孤児ANNIE」が町中央公民館大ホールで行われました。東日本大震災後から続けている本公演には、本町の小中学生30人が参加。会場には、約200人の観客が訪れ、子どもたちの元気いっぱいの演技に満場の拍手が送られました。第1部で主役のアニー役を務めた阿部心愛さん(山田小6年)は「観客の皆さんに練習の成果が見せることができうれしかった」と満足気な表情を浮かべていました。

船越小4年生が町長らに提案 観光客呼び込む「作戦」を発表

船越小学校(多田^{つよし}校長、児童85人)の4年生10人は1月27日、佐藤信逸町長など7人に向け、町に観光客を呼び込む「作戦」を発表しました。町と東京学芸大学などが連携した取り組みの一環で行われたもので、全国から募った会社員ら14人が協力。児童らはオンラインで助言を受けながら、道の駅、三陸鉄道、商店街のテーマに分かれてアイデアをまとめてきました。三陸鉄道をテーマにしたグループからは、駅に児童が描いた大漁旗を飾る案などが提案され、新たな視点の誘客作戦に町長らも大きくうなずいていました。



お世話になった園のために 園児が卒園記念のテーブル作り

トントントンと園内に響く金槌の音——。1月31日、船越保育園(山崎^{こむら}智子園長・園児41人)では、年長組の園児8人が卒園記念のテーブル作りを行いました。お世話になった園のために手作りの物を贈ろうと行われたこの取り組み。園児らは地元大工からくぎの打ち方のコツなどを教わりながら、角材などの組み立て作業に挑戦していました。中には途中で「重くて疲れたあ」と交代したり、何度も狙いが外れたりする様子も見られましたが、やすり掛けで表面を仕上げ2台のテーブルを完成させると「やっと出来たあ」と記念の合作を前に大喜びでした。